

toto 助成事業報告 スポーツ教室・スポーツ大会等開催（スポーツ）  
**第23回 ノーマライゼーション水泳フェスティバル**  
**& ユニバーサルスポーツチャレンジ**

【目的】

誰にでも楽しめるプログラムを提供することにより障害のある人もない人も共に水に親しみ、楽しみを共有することでノーマライゼーションを図る  
 また、ユニバーサルスポーツチャレンジ体験会を行ない、障害の程度に関係なく参加できる場の提供をする

【実施日】 令和3年3月14日（日曜日）

ゲーム&記録にチャレンジ&トップアスリートに学ぼう

令和3年3月21日（日曜日）

アーティスティックスイミング

【募集人数】 プール 200名

【参加人数】 150名

【従事者数】 112名

（実行委員23名・ボランティア89名）

【会議】 10回 各部門会議は随時

【反省会議】 1回

【計画】

副理事長が主体となり、会員及び一般から募集して実行委員会を組織化し運営に携わる

【決算】

toto 助成金、練馬区社会福祉協議会協賛金、参加料、水連負担金で決算

(収入) 合計	1,240,693 円
(内訳) toto 助成金	805,000 円
参加料	75,000 円
	(500 円 × 150 名)
協賛金	100,000 円
水連負担金	260,693 円
(支出) 合計	1,240,693 円
(内訳) 諸謝金	606,250 円
消耗品	127,669 円
スポーツ用具	228,811 円
印刷製本費	160,380 円
通信運搬費	6,693 円
雑役務費	10,890 円
その他 DVD 制作費	100,000 円

【成果】

- ・コロナ禍の中、感染予防で人数制限もあった中、安全に配慮して内容を分けて実施したがボランティアの協力を得て事故もなく大会を終えることが出来た
- ・トップアスリート（岩崎恭子さん、佐藤久佳さん）からワンポイントアドバイスをいただいて嬉しかったとの声をたくさん聞きました。

【反省】

- ・各館の障害者専用コーススタッフに協力を得て、参加者への呼びかけとボランティアとして協力を得られるようにしていきたい

【次年度への引き継ぎ事項】

- ・従事者の役割分担を早期に決め、滞りなく運営できるようにしていきたい
- ・新規参加者を増やせるように声掛けを行なっていきたい



toto 助成事業報告 スポーツ指導者の養成・活用（スポーツ）

対象別ウォーターエクササイズ地域指導者養成講座

【ねらい】

指導者の養成と、その充実を図り区民の生涯スポーツとしての水泳の普及と発展に努め、水の事故防止に寄与するため、指導者としての資質・技能の向上と多くの指導者の輩出を図る

【実施日】 地域指導者養成講座

第Ⅰ弾；初級障がい者スポーツ指導員養成編

R.3年 2/11 2/13 2/21

第Ⅱ弾；水泳指導者養成編

R.2年 11/11 11/30 12/7 R.3年 2/7

※緊急事態宣言により 1/21、2/26 の2講座は施設利用が出来なかったため次年度の同講座を履修することとする

【募集人数】 地域指導者養成講座 各期 20名

【参加人数】 33名（第Ⅰ弾 23名、第Ⅱ弾 10名）

【従事者数】 各講座講師他水連指導員 20名

【会議】 10回

【決算】 toto助成金、参加料、水連負担金で決算

(収入)	合計	999,932円
(内訳)	toto助成金	613,000円
	参加料	50,000円
	水連負担金	336,932円
(支出)	合計	999,932円
(内訳)	諸謝金	582,500円
	借料及び損料	43,200円
	消耗品	67,898円
	スポーツ用具費	263,780円
	通信運搬費	8,554円
	雑役務費	8,800円
	その他	25,200円

【反省会議】 5回

【計画】 プロジェクト委員を募り運営に携わる  
【成果】

①初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

- ・コミュニケーションの取り方やサポートの仕方でも多種多様で工夫しながら行なわなければならないことを学べ、とても充実した講習を受ける事が出来たと喜ばれた
- ・疑似体験をすることにより、障害者の方の視点や気持ちを学ぶことが出来て大変良かったと喜ばれた
- ・受講者全員が協会への登録を終え、令和3年度より障害者専用コースの研修を終えた方は、障害者専用コースに従事している

②水泳指導者養成編

- ・緊急事態宣言により開講できなかった2講座以外は、感染拡大予防対策を行ない、無事に終わることが出来た
- ・救急救命の実技でペットボトルを活用して心肺蘇生法の手順を学べ、大変良かった

【反省】

- ・各館にチラシを置かせて頂き、その補充を随時行なうべきだった
- ・従事者の役割分担を決めていたので、スムーズ運営できたが備品の確認は全員が事前しておく必要があった

【次年度への引き継ぎ事項】

- ・従事者の役割分担を早期に決め、滞りなく運営できるようにしていきたい
- ・新規参加者を増やせるように声掛けを行なっていきたい

